

MJ

2011 May vol.1059 - Japan



フォノ入力付き、96kHz/24ビット
対応USB D/Aコンバーター

MJ
ZOOMUP



アルファ・デザイン・ラボ **GT40** ¥41,790

超小型ながら多機能

近年、パソコンを活用したデジタルオーディオが盛んになってきているが、この人気は若いオーディオ愛好家から往年の愛好家まで幅広く、現在のデジタルデバイスの小型高性能化に伴い、比較的価格も抑えられた高品位モデルが登場してきていることも新しい特徴と言えるだろう。また、モデル全般を観望すると、ヘッドフォンやワードスピーカーと組み合わせて使用できるアンプ機能を持つコンパクトなUSB DACも注目されている。

オーディオケーブルや電源コンセントなどで高い評価を得ているフルテックは、アルファ・デザイン・ラボという新しいブランドを立ち上げてパソコンオーディオにも踏み込み、第一弾のモデルとして、小型でユニークなUSB DAC、GT40を発売した。

本機の機能は、パソコンとUSB接続し、96kHz/24bitまで（88.2kHz/24bitに実換される）のファイル音源再生ができるほか、MM/MCフォノイコライザーを搭載していることで、LP再生も可能で、切り換えによりCDプレーヤーなどライン入力の再生も可能（RCAアナログ入力1系統を切り換える）、しかもこれらのアナログ入力はパソコンのソフトを使って録音も可能である。また可変アナログ出力、ヘッドフォン出力を各1系統備えた充実した内容と

なっている。

フロントパネルにはアルミ切削の音響つまみを備え、アナログ出力とヘッドフォン出力は連動する。左上には2つの小さなスイッチがあるが、上側がUSBとアナログ入力選択で、このスイッチを押したときにアナログ入力となり、リアパネルのスライドスイッチでLINE/MM/MCの入力を選択できる。その下側は電源スイッチである。

A/DコンバーターとフォノEQを内蔵

本機の内蔵は小型ゆえに回路が凝縮されている。まずUSB入力直後にUSBインターフェースTENOR TE7022があり、デジタルデータ入出力の受け渡し役を果たしている。その後A/D、D/A変換回路が2系統に分かれていることが確認できる。

パソコンのデジタル再生を説明すると、USBインターフェースからのデジタル信号はTENOR TA1200D/Aコンバーター素子につながり、D/A変換後の信号はJRCNM2068オペアンプで構成されたアナログ回路に入る。その後音量ボリュームを経由して出力される仕組みで、ヘッドフォンアンプはJRCNM4556オペアンプで出力される。

次にアナログ入力再生/録音を説明すると、入力アナログ信号はLINE/MC/MMの3種から選択でき、LPの再生/録音では内蔵のN型MC/MMフォ